

## 農地貸付相手選択における出し手側の意識：個人的・社会的判断基準を中心に

塚本，大  
九州大学大学院生物資源環境学府

辻，雅男  
九州大学大学院生物資源環境学府

<https://doi.org/10.15017/4306>

---

出版情報：九州大学大学院農学研究院学芸雑誌. 57 (2), pp.283-294, 2003-02-01. 九州大学大学院農学  
研究院  
バージョン：  
権利関係：

## 農地貸付相手選択における出し手側の意識

— 個人的・社会的判断基準を中心に —

塚本 大\*・辻 雅 男

九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門  
国際農業資源開発・経営経済学講座農業経営学研究室  
(2002年10月31日受付, 2002年11月7日受理)

### A Study of the Influences of Individual and Social Factors on the Agricultural Land Borrower Selection

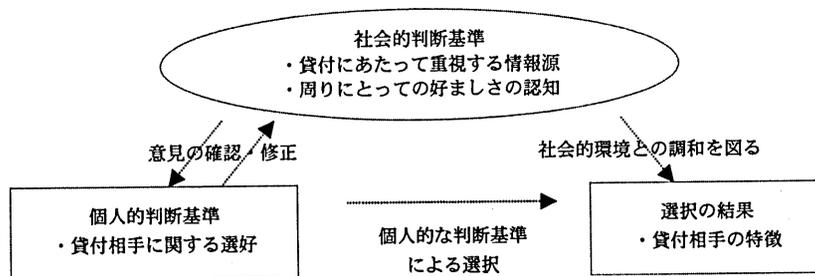
Dai TSUKAMOTO\* and Masao TSUJI†

Laboratory of Farm Management, Division of International Agricultural Resource Economics  
and Business Administration, Department of Agricultural and Resource Economics,  
Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka 812-8581

#### 緒 言

基本的に農地の貸し手は農地処分についてゾーニング等で規制され、貸借においては調整主体によって地域的に合理性を持つ土地利用を行う経営主体への農地貸付を調整されることで、計画的農地流動化への農地供給者となることが前提となっている。その農地供給者は基本的には土地持ち非農家と捉えられ、兼業化や

高齢化による就農リタイアによって生じるケースと、非農家が相続によって農地を取得するケースの2通りの発生パターンがある。いずれにしても農家と比べて非農家という農地に関する感覚が違ったものが農地供給者になっているという点が重要であり、農地流動システムを形成するための社会的誘因を効率よく発揮させるためには、まず農地供給者の意識と行動を把握することが必要である。



資料：筆者が作成

図1 農地貸し付け相手選択における判断基準

\* 九州大学大学院生物資源環境科学府農業資源経済学専攻国際農業資源開発・経営経済学講座農業経営学研究室  
\* Laboratory of Farm Management, Division of International Agricultural Resource Economics and Business Administration, Department of Agricultural and Resource Economics, Graduate School of Bioresource and Environmental Sciences, Kyushu University  
† Corresponding author (Email: mtuji@kyushu-u.ac.jp)

## 研究方法と課題

農地貸借においては、経済合理性を含めた農地供給者個人の選択的要素が強いものの、血縁・地縁を含めた周辺農家の存在を無視することはできない。そのため農地供給者は集落もしくは農家同士の付き合いといった自分の属する社会的環境に調和するように貸付相手を選択すると考えられる。そこで、農地供給者の土地持ち非農家である性格を考慮するための個人的・社会的判断基準を中心に、調整機関の介在しない個別相対取引中心の貸借でありながら農地流動化の進展度合いが異なる二つの町において貸付相手選択における農地の出し手側の意識と行動を比較し分析する。なお、貸付相手側（受け手）からの分析も加える必要があるがそれは今後の課題とする。

## 研究対象・手法

研究対象は、稲作中心の地域である福岡県北部の市町村の中で、借入耕地率の最も高い鞍手町と平均的な穂波町を選定した。そこで各町の農業委員会が農地供給者の多い3、4集落の中から各町30戸ずつ無作為に抽出し、郵送・手配でアンケート調査を行い、鞍手町24戸（80%）、穂波町25戸（84%）の回答を得た（実施

時期：平成12年8月）。

37%と借入耕地面積率が福岡県北部で最も高い鞍手町は、福岡県北部地域の北西に位置し、北九州市、福岡市周辺など隣市町への通勤地帯である。鞍手町の農業は、平坦水田地帯での米麦作が主体で、基盤整備は70年代以降石炭鉱害復旧事業で取り組まれ、ほぼ100%の水田で完了している。18%と福岡県北部で借入耕地面積率が平均的な穂波町は福岡県北部地域の南西に位置し、北九州市、福岡市周辺など、隣市町への通勤地帯である。穂波町の農業は平坦水田地帯での米作が主体で、基盤整備は70年代以降石炭鉱害復旧事業で取り組まれ、ほぼ90%の水田で完了している。

## 調査結果の概要

表2、表3から、農地供給者の年齢に差はないものの、鞍手町は一人当たり1.5倍近い農地を貸付けている。貸付しようと思ったきっかけは体調不良や高齢のための労力不足によるものを中心で、貸付全般の決定は世帯主が行っている。農地貸付を行った理由については「耕作放棄は避けたい」や「農地を売ることに抵抗があるため」といった意見が多く、それは特に鞍手町で顕著であった。地域農業重視や後継者のため、転用期待といった積極的理由はあまり聞かれず、耕作

表1 調査対象地の概況（1995年）

	鞍手町	穂波町	福岡県平均
借入耕地面積率	37.0%	18.0%	14.7%
耕作放棄地率	1.3%	0.9%	3.6%
農地転用面積率	0.16%	0.75%	0.50%
一戸当たり経営耕地面積	160a	96a	91.8a

資料：農業センサス、農地の移動と転用

表2 農地供給者の特徴

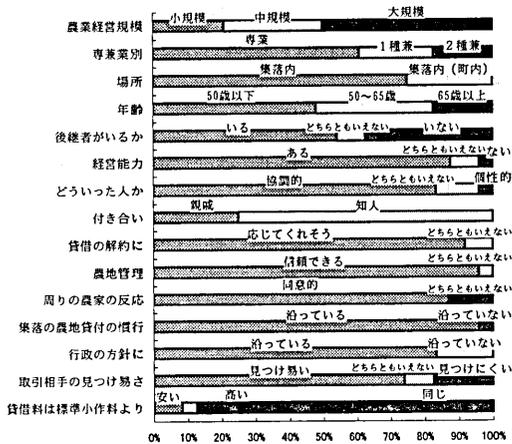
	鞍手町	穂波町
現在の平均年齢(歳)	70.7	63.5
貸付を行ったときの平均年齢(歳)	59.6	53.1
平均貸付面積 (a)	99.5	67.0
貸付をする前の農業 (%) (専業別)	専業	26.3
	第一種兼業	26.3
	第二種兼業	47.4
貸付しようと思ったきっかけ (%)	労力不足	95.7
	規模縮小	4.3
決定者 (%)	世帯主	87.5
契約内容 (%)	利用権設定	50.0
	農地法3条	33.3

資料：アンケート結果により作成（以下の図、表も同じ）

表3 農地貸付の理由

	鞍手町	穂波町
地域に貢献したい	16.7	23.1
売ることには抵抗がある	45.8	38.5
後継者が就農するまで	20.8	11.5
転用期待	12.5	11.5
耕作放棄は避けたい	70.8	46.2

注：農地処分時に貸付を行う理由を多重回答したものである  
(%, 表4～表10も同じ)

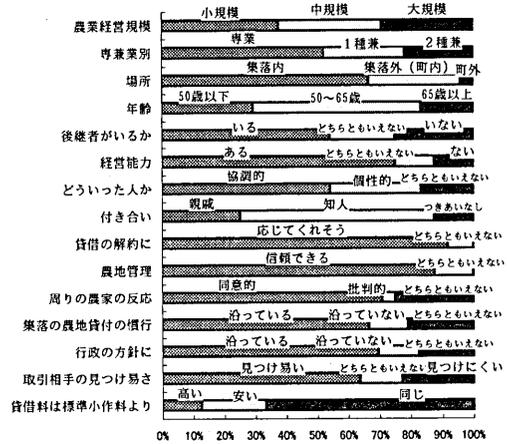


注1：全て農地供給者側からの回答である。  
注2：各項目は事前に行った役場等での調査からあげられた貸付を行う際に重視するとされた借り手に関する項目である。  
注3：農業経営規模では中規模を約3haとしてそれ以上を大規模それ以下を小規模とした。行政の方針では町・県・国の農地流動化に関する政策や指導にそっているかとして回答したものである。

図2 農地貸し付け相手の特徴(鞍手町)

放棄や売ることには抵抗があるためとする貸付以外の農地処分方法を理由とした消極的なものが多く聞かれたことから、農地処分の段階では特にこれといった目的もなく貸付しか選択の余地がないなかで貸付相手選択を行うものと考えられる。

図2, 3から、二つの町では共通して「専業」、「集落内」、「後継者あり」、「経営能力がある」、「知人」、「貸借の解約に応じてくれそう」、「農地管理が信頼できる」農家に農地を貸付ける傾向が強く、それは特に鞍手町で顕著であった。異なるのは「農業経営規模」、「年齢」の項目において、鞍手町のほうが比較的規模が大きく、比較的若い農家に貸付ける傾向にあることである。



注：図2に同じ

図3 農地貸し付け相手の特徴(穂波町)

### 農地供給者の農地貸付相手選択要因

#### 1. 個人的判断基準と社会的判断基準

##### (1) 貸付相手に関する選好(表4)

個人的判断基準として農地供給者が貸付相手に関して持つ選好をみる。共通して「専業業別」、「経営能力」を重視して農地貸付相手選択を行う傾向にある。鞍手町では加えて「経営規模」、「年齢」、「付き合い」を重視する傾向が強く、穂波町では加えて「後継者がいるか」、「解約への応じやすさ」を重視する傾向が強い。

##### (2) 貸付にあたって重視する情報源(表5)

社会的判断基準の一つとして貸付に当たって重視する情報源をみる。共通して「知人」や「地域の中心的農家」の意見を重視して農地貸付相手選択を行う傾向にあり、特に鞍手町ではその傾向が強い。また、集落の話し合いや行政機関を情報源とすることはほとんどなく、個人単位の付き合いの中で情報を交換していることが分かる。

表4 貸付相手に関する選好

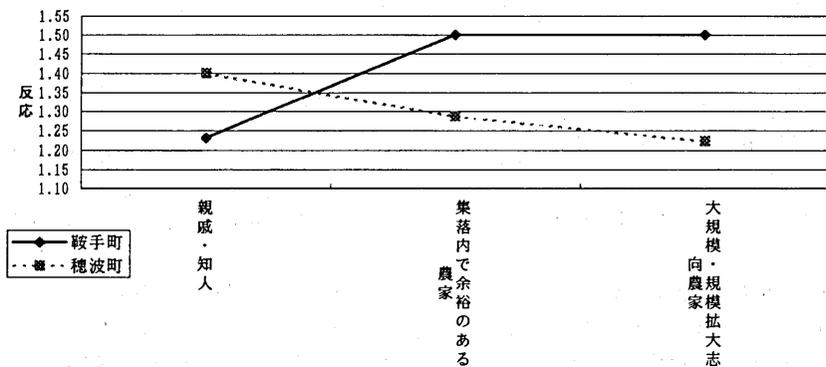
	鞍手町	穂波町
経営規模	31.8	25.0
専業業別	31.8	37.5
どこのひとか	9.1	4.2
年齢	31.8	16.7
後継者がいるか	22.7	37.5
経営能力	50.0	37.5
どういったひとか	9.1	0.0
付き合い	45.5	20.8
解約に応じてくれそう	27.3	33.3
農地管理が信頼できる	13.6	16.7

注：各項目は図2, 3を参考に貸付相手のどこを重視するかを多重回答したものである。

表5 貸付に当たっての情報源

	鞍手町	穂波町
家族	13.0	8.0
親戚	17.4	18.0
知人	56.5	32.0
地域の中心的農家	47.8	24.0
集落の話し合い	4.3	0.0
行政機関	4.3	8.0

注：各項目は貸付相手選択に際し誰の意見を重視するかを多重回答したものである。



注：各貸付相手に農地を貸付けたとすると、周りの農家はどう思うであろうかを周りの農家にとって好ましい (+3, +2, +1), 無関心 (0点), 好ましくない (-1, -2, -3点) と点数形式で農地供給者が回答し、それを平均したものを周りの農家の反応とした。

図4 農地供給者に対する周りの農家の反応 (農地貸付相手別)

(3) 貸付にあたっての周りの反応 (図4)

社会的判断基準の一つとして貸付にあたっての周りの反応をみる。鞍手町では「集落内で余裕のある」か「大規模・規模拡大志向」農家のほうが、穂波町では

「親戚・知人」に貸付けるほうが他の貸付相手に貸付けるよりもより周りに好まれる状況にある。また、この反応と個別の回答との分散の平均を見ると鞍手町 0.88, 穂波町1.03となっており、鞍手町のほうが回答

にばらつきが小さく認識にまとまりがあり、穂波町ではばらつきが大きく様々なとらえ方が存在することがわかる。

## 2. 農地貸付相手選択要因分析

### (1) 個人的判断基準 (表6)

鞍手町において「農業経営規模」、「専業業別」、「年齢」、「経営能力」、「付き合い」を重視する人はそれぞれ大規模、専業、50歳以下と比較的若い、経営能力がある、親戚といった貸付相手を選択する傾向にあることが分かる。また、穂波町において「後継者がいるか」、「経営規模」、「経営能力」、「解約への応じやすさ」を

重視する人はそれぞれ後継者がいる、大規模、経営能力がある、解約に応じてくれそうといった貸付相手を選択する傾向にある。このことから、二つの町では貸付で重視されている項目と選択結果の特徴との関係が深い。

### (2) 社会的判断基準

#### 1) 貸付にあたっての情報源と貸付相手の特徴との関係 (表7)

鞍手町においては知人や地域の中心的農家の意見を重視する人は「農業経営規模」で大規模、「場所」で集落内、「年齢」で50歳以下と比較的若い相手、「付き

表6 個人的判断基準と貸付相手の特徴との関係

			個人的判断基準			
			鞍手町		穂波町	
			重視しない	重視する	重視しない	重視する
貸付相手の特徴	経営規模	小規模	100	0	88.9	11.1
		中規模	83.3	16.7	85.7	14.3
		大規模	40	60	42.9	57.1
	年齢	50歳以下	40	60	85.7	14.3
		50～65歳	100	0	75.0	25.0
		65歳以上	75	25	100.0	0.0
	経営能力	あると思う	47.1	52.9	38.9	61.1
	付き合い	親戚	16.7	83.3	83.3	16.7
		知人	64.3	35.7	71.4	28.6
貸借の解約に	応じてくれそう	72.7	27.3	38.1	61.9	

注：貸付相手の選好に関しては表4において重視されていた項目を取り上げて、貸付相手の特徴との関係を見たものである。例えば鞍手町では年齢で50歳以下の相手に貸し付けている人の60%が個人的判断基準において年齢を重視していることが分かる。

表7 情報源と貸付相手の特徴との関係

			貸付にあたっての情報源							
			鞍手町				穂波町			
			知人		地域の中心的農家		知人		地域の中心的農家	
			いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
貸付相手の特徴	経営規模	中規模	66.7	33.3	83.3	16.7	75.0	25.0	87.5	12.5
		大規模	30.0	70.0	20.0	80.0	71.4	28.6	42.9	57.1
	場所	集落内	26.7	73.3	53.3	46.7	62.5	37.5	93.8	6.3
		集落外(町内)	80.0	20.0	40.0	60.0	85.7	14.3	50.0	50.0
	年齢	50歳以下	40.0	60.0	40.0	60.0	85.7	14.3	42.9	57.1
		50～65歳	16.7	83.3	66.7	33.3	61.5	38.5	84.6	15.4
	後継者	いる	46.2	53.8	53.8	46.2	79.6	23.1	69.2	30.8
	経営能力	ある	45.0	55.0	50.0	50.0	77.8	22.2	66.7	33.3
	付き合い	知人	35.7	64.3	35.7	64.3	53.3	46.7	66.7	33.3

注：表5において貸付に際して重視されていた情報源を取り上げて、貸付相手の特徴との関係を見たものである。

合い」で知人と言った貸付相手を選択する傾向にあることが分かる。また、穂波町では知人の意見を重視する人に特に傾向は見られないが、地域の中心的農家の意見を重視する人は「農業経営規模」で大規模、「年齢」で比較的若い貸付相手を選択する傾向にある。このことから、鞍手町では情報源という社会的判断基準が貸付相手選択結果の特徴と関係が深い、穂波町では弱いことが判る。

2) 周りの反応の認知度と貸付相手の特徴との関係  
(表8)

鞍手町では周りの農家の反応を認知している度合い

が高い層のほうが「経営規模」で大規模、「経営能力」がある、「付き合い」で知人、「農地管理」で信頼できる相手を選択する傾向があり、穂波町では、「経営規模」で大規模でない、「年齢」で比較的若くない相手を選択する傾向にある。このことから二つの町では周りの反応とその認知度という社会的判断基準が貸付相手選択結果の特徴と関係が深いことが判る。

(3) 個人的判断基準と社会的判断基準の関係

1) 貸付にあたっての情報源と個人的判断基準との関係(表9)

鞍手町において知人や地域の中心的農家の意見を重

表8 周りの反応の認知度と取引相手の特徴との関係

			周りの反応の認知度			
			鞍手町		穂波町	
			認知が低い層	認知が高い層	認知が低い層	認知が高い層
貸付相手の特徴	経営規模	小規模	75.0	25.0	57.1	42.9
		中規模	20.0	80.0	50.0	50.0
		大規模	50.0	50.0	80.0	20.0
	年齢	50歳以下	33.3	66.7	100.0	0.0
		50～65歳	83.3	16.7	50.0	50.0
		65歳以上	33.3	66.7	50.0	50.0
	経営能力	あると思う	46.7	53.3	61.5	38.5
	後継者	いる	63.6	36.4	61.5	38.5
	付き合い	知人	45.5	54.5	50.0	50.0
	農地管理	信頼できる	33.3	66.7	62.5	37.5

注：図4で見た周りの農家の反応についての点数と個別の回答との分散によって、それが平均よりも大きいすなわち周りの反応を個別で認知している度合いが低い層と、分散が平均よりも小さいすなわち周りの反応を個別で認知している度合いが高い層とに分け、周りの農家の反応を認知している度合いが貸付相手の特徴とどういう関係にあるかを見たものである。

表9 貸付にあたっての情報源と貸付相手に関する選好との関係

		貸付にあたっての情報源							
		鞍手町				穂波町			
		知人		地域の中心的農家		知人		地域の中心的農家	
		いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
個人的判断基準	農業経営規模	28.6	71.4	42.9	57.1	83.3	16.7	16.7	83.3
	専業業別	50	50	66.7	33.3	66.7	33.3	55.6	44.4
	どこの農家か	50	50	100	0	100	0	100	0
	年齢	42.9	57.1	28.6	71.4	25	75	50	50
	後継者	50	50	50	50	77.8	22.2	77.8	22.2
	経営能力	44.4	55.6	33.3	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3
	付き合い	30	70	60	40	40	60	80	20
	解約への応じやすさ	50	50	50	50	62.5	37.5	75	25

注：貸付にあたっての情報源に関しては表5において貸付に際して重視されていた情報源を取り上げて、貸付相手に関する選好との関係を見たものである。

視する人のほうが貸付相手の「経営規模」, 「年齢」, 「経営能力」を重視する傾向にあること, 穂波町では知人の意見を重視する人は「年齢」, 「付き合い」を重視する傾向にあり, 地域の中心的農家の意見を重視する人は「経営規模」を重視する傾向にあることが分かる。このことから鞍手町では貸付にあたっての情報源は重視されている貸付相手に関する選好と関係が深いこと, 穂波町では関係が弱いことが判る。

## 2) 周りの反応の認知度と個人的判断基準の関係

(表10)

鞍手町において認知度が高い層のほうが「経営規模」, 「専業業別」, 「どこの農家か」, 「年齢」, 「付き合い」を重視する傾向にあることが分かり, 穂波町では「専業業別」, 「年齢」を重視する傾向にあることが分かる。このことから鞍手町では周りの反応の認知度が重視されている貸付相手に関する選好と関係が深いこと, 穂波町では認知度と貸付相手に関する選好との関係が弱いことがわかる。

## 3. 考察

鞍手町においては大規模経営を行っている, 比較的若い, 経営能力がある農家が農地貸付相手として選択される傾向にある。というのも多くの農地供給者が「経営規模」・「年齢」・「経営能力」を重視して貸付を行うからというのが大きな要因であるが, それに加え知人・地域の中心的農家といった農地貸付にあたっての情報源や周りの農家の反応とその認知度といった社会的判断基準もその要因となっている。さらにその社会的判断基準と個人的判断基準も相互に深く関係しあっていることから, 穂波町に比べると情報源・周りの反

応という社会的判断基準がうまく作用していると考えられる。

穂波町においては比較的小規模で, 若くない, 貸借の解約に応じてくれそうな農家が農地貸付相手として選択される傾向にある。というのも「年齢」, 「解約への応じやすさ」を重視して農地貸付を行う人が多く, 「経営規模」を重視する人が少ないというのが大きな理由であり, また周りの農家にとっての好ましさとその認知度もその要因となっている。しかし知人や地域の中心的農家といった情報源が選択結果の特徴と結びついておらず, 個人的判断基準との関係も弱いこと, 周りの反応の認知度にばらつきが大きいこと, なかには地域の中心的農家の意見を重視し「経営規模」を重視して大規模農家に貸付を行うといった鞍手町の農地供給者のタイプに似た人も見られること等を考えると, 穂波町では様々な考えで農地貸付を行なっている農地供給者が多いと考えられる。

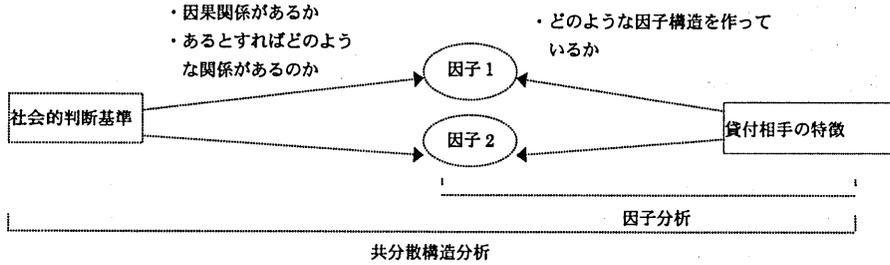
## 社会的判断基準が貸付相手選択に与える影響についての分析

まず, 先ほどみた貸付相手の特徴がどのような構造(因子)から成り立っているのかについて, 探索的因子分析によって明らかにしていく。そして, その観測されない潜在因子を従属変数としていくつかの観測される独立変数からパスを引くという手続きをとる共分散構造分析を用い, 明らかにされた因子(貸付相手の構造)に対して, 社会的判断基準がどのように影響しているのかを表す妥当な因果モデルを作成し, 社会的判断基準が貸付相手選択に与える影響について考察する。

表10 周りの反応の認知度と貸付相手に関する選好との関係(鞍手町)

		周りの反応の認知度			
		鞍手町		穂波町	
		認知が低い層	認知が高い層	認知が低い層	認知が高い層
個人的判断基準	農業経営規模	20	80	66.7	37.5
	専業業別	40	60	40	60
	どこの農家か	0	100	100	0
	年齢	33.3	66.7	33.3	66.7
	経営能力	50	50	71.4	28.6
	後継者がいるか	50	50	57.1	42.9
	付き合い	44.4	55.6	75	25
	解約への応じ易さ	50	50	71.4	28.6

注: 表8と同様にして, 周りの反応の認知度が低い層と高い層に分け, 周りにとっての好ましさを認知している度合いが貸付相手に関する選好とどう関係にあるかを見たものである。



資料：報告者が作成

図5 社会的判断基準が貸付相手選択に与える影響についての研究方法

表11 農地貸付相手の特徴の項目

農業経営規模	1. 小規模	2. 中規模 (3 ha くらい)	3. 大規模
専業業別	1. 第二種兼業	2. 第一種兼業	3. 専業
場所	1. 町外	2. 集落外(町内)	3. 集落内
年齢	1. 65歳以上	2. 50~65歳	3. 50歳以下
相手には後継者がいるか	1. いない	2. どちらともいえない	3. いる
経営能力は	1. あまりない	2. どちらともいえない	3. あると思う
どういった人か	1. 個性的	2. どちらともいえない	3. 協調的
付き合いは	1. 付き合いがあまりない	2. 知人	3. 親戚
貸借の解約には	1. 応じにくそう	2. どちらともいえない	3. 応じてくれそう
貸し付けた農地の管理は	1. どちらともいえない	2. 維持はしそう	3. 有効利用しそう
周りの農家の反応は	1. 批判的	2. どちらともいえない	3. 同意的
集落の貸付の慣行には	1. 沿っていない	2. どちらともいえない	3. 沿っている
行政の方針には	1. 合っていない	2. どちらともいえない	3. 合っている
相手の見つけ易さは	1. 見つけにくい	2. どちらともいえない	3. 見つけ易い
貸借料は標準小作料より	1. 安い	2. 同じくらい	3. 高い

注：図2, 3に対応

1. 貸付相手の特徴の因子構造

ここでは単純集計では把握しにくい農地貸付相手の構造を明らかにするために、貸付相手の特徴に対する全質問項目について表11のように1~3点と得点化を行った後、欠損値を平均値で置換して探索的因子分析を行った(主因子法・バリマックス回転)。その結果両方の町で解釈可能な4因子を抽出した。因子負荷量の高い項目項目、因子負荷量、寄与率を表12~15に示す。

まず鞍手町において、第一因子は「年齢」、「経営能力」、「付き合い」、「周りの反応」の項目で負荷量が高い。これは自分も周りもよく知っていて若く、経営能力があることから「有望性」と命名した。第二因子は「経営規模」、「専業業別」などの項目で負荷量が高い。

表12 固有値および寄与率(鞍手町)

因子	固有値	寄与率	累積寄与率
1	3.33	22.20%	22.20%
2	2.59	17.24%	39.45%
3	1.90	12.68%	52.13%
4	1.66	11.07%	63.20%

因子抽出法：主因子法

表13 固有値および寄与率(穂波町)

因子	固有値	寄与率	累積寄与率
1	4.54	30.29%	30.29%
2	2.31	15.41%	45.70%
3	1.89	12.58%	58.28%
4	1.11	7.39%	65.67%

因子抽出法：主因子法

表 14 貸付相手の特徴一回転後の因子負荷量行列—(鞍手町)

	因子			
	1	2	3	4
経営能力	0.92	0.10	0.00	0.27
周りの農家の反応	0.73	0.18	-0.13	0.06
付き合い	-0.62	0.16	-0.07	0.15
農業経営規模	0.18	0.73	0.11	0.28
専業業別	0.12	0.71	-0.07	0.43
後継者がいるか	0.05	-0.68	0.04	0.10
集落の農地貸付の慣行	-0.13	0.31	0.77	0.10
行政の方針に	-0.14	-0.18	0.58	0.03
見つけ易さ(取引費用)	0.12	-0.02	0.49	0.01
農地管理	0.05	0.10	0.13	0.68
貸借の解約に	-0.08	0.18	0.61	0.66

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a 7 回の反復で回転が収束しました。

表 15 貸付相手の特徴一回転後の因子負荷量行列—(穂波町)

	因子			
	1	2	3	4
周りの農家の反応	0.82	0.00	0.04	0.45
行政の方針に	0.65	0.13	0.00	0.05
どういった人か	0.59	-0.10	0.40	0.50
見つけ易さ(取引費用)	0.55	-0.04	0.31	0.03
集落の農地貸付の慣行	0.49	0.04	0.25	-0.07
年齢	0.35	0.63	0.31	-0.08
付き合い	0.14	-0.62	0.09	-0.05
場所	0.06	-0.58	-0.30	-0.14
専業業別	0.18	0.56	-0.14	0.25
農業経営規模	0.12	0.53	0.19	0.24
経営能力	0.18	0.14	0.90	0.07
後継者がいるか	0.17	0.03	0.60	-0.11
農地管理	0.17	0.25	0.14	0.82
貸借の解約に	0.04	0.22	-0.29	0.72

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a 8 回の反復で回転が収束しました。

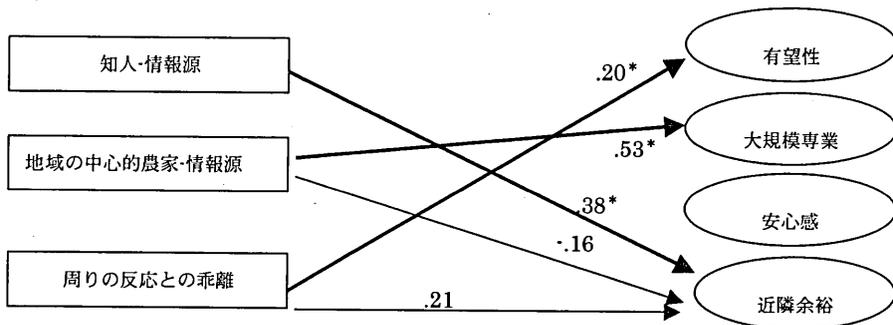
よって「大規模専業」と命名した。第三因子は「解約への応じやすさ」、「農地管理」の項目で負荷量が高い。これは農地を貸している間は管理をしっかりやってくれて、こちらの都合で解約したいときはすんなり応じてくれるということで「安心感」と命名した。第四因子は「場所」、「どういった」、「貸借料」の項目で負荷量が高い。よってこれを「近隣で余裕がある」と命名した。

次に穂波町において、第一因子は「どういった」、「周りの反応」、「取引費用」の項目で負荷量が高い。よってこれを「非難されない」と命名した。第二因子は「経営能力」、「後継者」の項目で負荷量が高い。これは鞍手町とは多少異なるものの経営能力があり、後継者もいることから「有望性」と命名した。第三因子は「経営規模」、「専業業別」、「年齢」などの項目で負荷量が高い。よってこれを「大規模専業」と命名した。

第四因子は「解約への応じやすさ」、「農地管理」の項目で負荷量が高い。これは鞍手町と同様「安心感」と命名した。

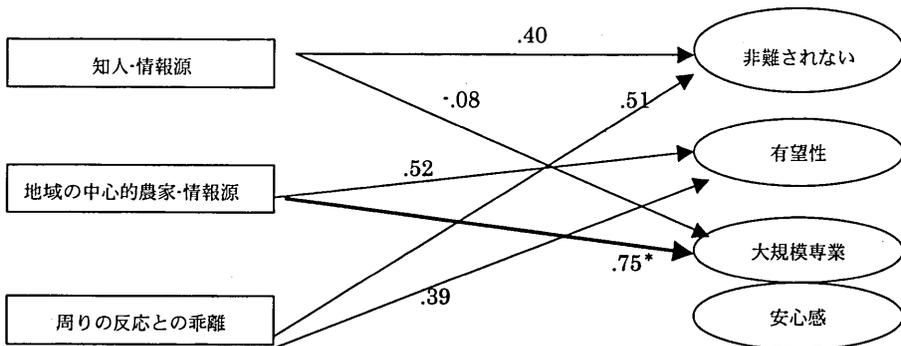
どちらの町でも「大規模専業」、「有望性」、「安心感」という因子が抽出でき、さらに「近隣で余裕がある」、「非難されない」という各町で固有の因子が抽出され、二つの町でどのようなタイプの相手へ農地が貸し付けられているかがある程度想像できる。注目すべきは経営規模と経営能力が別の因子を構成していることである。これについて「経営規模」に関しては実際に現在大規模経営であると捉え、「経営能力」に関しては水稲作中心地帯であるため今は大規模ではないが将来有望もしくは生産や販売等でその能力を発揮している経営と捉えることで、以下の分析を進めることとする。

2. 社会的判断基準が農地貸付相手選択に与える影響  
 共分散構造分析を用いて、社会的判断基準が農地貸付相手選択に与える影響についての因果モデルの作成を試みた。分析にあたっては社会的判断基準として3つの観測変数「知人-情報源」、「地域の中心的農家-情報源」、「周りの反応との乖離」から貸付相手の特徴についての各因子へパスを引くという手続きをとり、有意でないパスを削除したりしながら探索的に適合度を調べていくという方法をとった。その結果、理論的な妥当性を持ち、かつ適合度の高いモデルを作成し、二つの町での比較・分析を行った。「周りの反応との乖離」については表8、10における周りの反応の認知度で使った各町で平均された周りの反応の点数と個別の回答との分散をそのまま観測変数として使い、それが大きいと周りの反応とその認識の乖離が大きく（周りの反応があまり認識できてない）、分散が小さいと



注：共分散構造分析の結果から、今回注目する社会的判断基準から各因子への影響を表すパス係数だけ統計的に有意であるもの (C.R.<.05) と統計的に有意ではないが削除しても適合度があまり高くないものを抜き出してまとめたものである。

図6 社会的判断基準から各因子（貸付相手の特徴）へのパス係数（鞍手町）



注：図6と同じ

図7 社会的判断基準から各因子（貸付相手の特徴）へのパス係数（穂波町）

周りの反応とその認識の乖離が小さい（周りの反応がよく認識できている）と逆の意味で捉えることが可能であるため、この分散を周りの反応との乖離として以下の分析の指標とした。その際に注目していくのは、社会的判断基準から各因子へのパスのうち、統計的に有意であるパス（C.R.<.05）と、統計的に有意ではないが削除しても適合度があまり高くないパス（影響力は小さい）である。そこでそのパスだけを抜き出したものが図6、7に示してある。

まず鞍手町では、「地域の中心的農家—情報源」は「大規模専業」へ正の影響が強く、「近隣で余裕がある」へ負の影響がある。「知人—情報源」は「近隣で余裕がある」へ正の影響が強く、「周りの反応との乖離」は「有望性」と「近隣で余裕がある」へ正の影響がある。次に穂波町においてみると、「地域の中心的農家—情報源」から「有望性」と「大規模専業」へ正の影響がある。「知人—情報源」は「非難されない」へ正の影響、「大規模専業」へ負の影響があり、「周りの反応との乖離」は「非難されない」と「有望性」へ正の影響がある。

### 3. 考察

「地域の中心的農家—情報源」はどちらも大規模専業因子へ正の影響があり、現在存在する大規模専業農家への貸付に影響を与えていると考えられる。穂波町で有望性因子への影響があるのは、実際には大規模農家が少ないため、そのかわりに将来有望な農家を望んでいるためであろう。これは、鞍手町では大規模農家が多く存在するため有望性因子への影響がみられないことから推測される。「知人—情報源」はどちらの町も特に規模や能力への影響というよりも、近隣で余裕がある因子や非難されない因子に影響を与えていることから、以前から付き合いのある人の意見というのは相互扶助的な信頼関係を重視する方向への影響があると考えられる。「周りの反応との乖離」ではどちらの町も有望性因子へ正の影響があるが、もともと周りの反応が異なることからその意味合いも異なるものと考えられる。鞍手町の場合は大規模農家への貸し付けを周りが好むという状況を認知していない人が将来有望、近隣で余裕があるを選択するということである。穂波町の場合は親戚・知人への貸付を周りが好むという状況を認知していない人が有望、非難されないを選択するということである。つまり、周りの反応を認知して

いない人は周りの好まない貸付、もしくは自信がない周りに合わせる貸付を行うということであると考えられる。しかし逆に考えると、周りの反応を認知することが貸付に影響を与えているとはいえない。また、どの社会的判断基準からの影響も少ない安心感は、個人の嗜好等が強く影響するものであり、その意味からも従来からのいわゆる家産意識が表れた因子であると考えられる。

## 総 括

どちらの町もある程度は、個人的判断基準が貸付相手選択と関係が深いと指摘できる。社会的判断基準については、情報源や周りの反応が農地供給者の行動に影響を与えることが、事例分析からではあるがある程度実証的データに基づき明らかにできた。社会的判断基準が貸付相手選択にどのような影響を与えるかについては地域ごとに異なるであろうが、今回の分析の結果から、例えば現在これら二つの町で、大規模農家への農地集積を進めるとすれば、まずは知人よりも地域の中心的農家の意見を重視するように農地供給者を促していくこと、それに加え大規模農家への貸付を好むという周りの状況をつくり、それを認識していない農地供給者を減らしていくことが効果を発揮すると考えられる。

このように、今後高齢化・担い手不足の更なる進展に伴いそれぞれの地域において合理性を持つ農地システムの形成が叫ばれ、その第一段階として農地流動化問題が更に重要性を増すであろう。計画的農地流動化を進めるために調整的農地市場を形成していく場合であれば、社会的誘因を与える情報交換システム形成に加え、地域的に合理性を持つ農地利用へむけた共通認識を広めていくことが、その有効な土台になると考える。しかし、今回の分析では事例分析とその現状把握にとどまり、その解決・調整については更に慎重な対応が必要であることから、社会的判断基準を含んだ農地貸借調整については今後さらに研究を進めていく必要がある。

## 文 献

- 盛田清秀 1998年 農地システムの構造と展開 総合農業経済学書第35巻 農林水産省農業総合研究所 東京  
狩野素朗 1987年 現代社会心理学 有斐閣 東京  
山本嘉一郎・小野寺孝義 1999年 Amos による共分散構造分析と解析事例 ナカニシヤ出版 京都

## Summary

It is said that farmland owners lend the land in order to satisfy their economic purpose and interdependent fiduciary relation in territorial society or blood relation. On the other hand the so-called consensus in village may give the ideal way of farmer's selection for good behavior as well as to be the clue toward each action. So this study aims at analyzing the influence of individual and social factors on the landowner's decision making when selecting the land borrowers. The study area is two towns which are different in the percent of farmland mobilization in the same area.

The first analysis is to understand individual and social factors. Individual factor is the preference of landowners. Social factors are the information source and the surrounding performance. The second analysis is to examine the relation among the individual and the social factors and the landowner's decision making when selecting their borrowers. The third analysis is to study the relation among the individual and the social factors. The fourth analysis is to identify the kind of borrowers of farmland who can rent land from land-owners by using the factor analysis. The fifth analysis is to make some appropriate models considering how the social factors influence on the decision of owners about what kind of borrowers can rent their land by using the covariance structure analysis.

The result shows that the social factors as well as the individual are important in farmland mobilization. And it is important for land-owners to take into account the opinion of the primary farmer in the village rather than of the friends or the relatives. It is valid if the farmland accumulation to a large-scale farmer is advanced for instance. In addition the situation for lending preferences of a large-scale farmer, and decreasing the number of farmland owners who don't understand other farmers reaction demonstrates the above effect.